



昭和49年
9月号

発行所 東郷町役場
編集人

牧水カルタを製作

ふえる記念館の観覧者

郷土の歌人牧水先生の四十七回忌にあたる九月十七日、生地の評谷では牧水祭が開かれます。

この日は、生家裏山の和田越にある「ふるさとの尾鈴の山のかなしきよ秋もかすみのたなびきて居り」の歌が刻みこまれた自然石の歌碑に清酒をそそぎ、先生の遺業をしのぶことにしています。

七月十八日から二十九日まで、宮崎市で開かれた「牧水とふるさと」展では、牧水記念館の全資料を一般に公開し、好評でした。そして、このところ記念館を訪れる人がめっきり多くなっています。

昨年度の観覧者は、年間延八千四百三十二人、一日平均二十三人でした。ことし四月から八月までは三千五百人近い人が訪れ、七月に宮崎市で展覧会を開いたばかり

で減ると心配していた八月の観覧者も千人近くにふえました。そのほとんどが夏休みを利用して訪れる町外の人たちで、日向市から来たという若い女性も「ここに来て初めて牧水先生の心にふれたみたい」と話してくれました。牧水先生の心……それはふるさとの心だという人もいます。あなたも牧水記念館へどうぞおいでください。

また、牧水顕彰会では七千首近い牧水先生の作品の中から百首を選んで「牧水カルタ」を作ること、いろいろ準備してきましたが、先月その百首が決まりました。このカルタは百人一首の形式をとり二千組を製作することになっていますが、近く製作にとりかかり、年内には一般に頒布できそうです。

第三日曜日(十五日)は家庭の日



点滴

防災の日

秋といえば、涼しさの代名詞に使われているほどですが、その年の気候の具合で、秋になっても暑さが残り、なかなかぬけきれないこともあります。でもよくしたもので、朝夕はめっきり涼しくなり、秋の気配を感じさせる新涼の季節にはいりました。

▽九月はいやな台風シーズン。先月二十四日には、Uターン十四号台風が本町に集中豪雨をもたらし、近年まれにみる大きな被害を受けました。幸い人命に異常のなかつたものの、町対策本部のまとめによると道路、農作物を中心に一億六千万円をこえる被害額がでたもようです。

▽一日は「防災の日」です。万一の災害にそなえ、家族全員安全な場所に避難する……その時の用意に、さしあたり「家族防災会議」を開いて、よく話し合っておきたいものです。

秋の日あし追ひつ
つうつる群をおひ
父ひもすがら蠅う
ちくらす 牧水

○……………とじて保存しよう……………○

昨年の十一月から工事をすすめてきた町立病院がようやく完成し、七月三十日から新しい病院での診療を開始しました。新病院は、今までの病院の東側、国道三二七号線沿いの町有地に二年連続事業で建設したものです。

昭和二十九年六月、それまでは無医村として医療に恵まれなかった本町にも、国民健康保険直営の診療所が開設されました。その後診療所は三十七年に伝染病隔離病

舎を併設して病院に昇格し、ことで満二十周年を迎えました。しかし、木造建築の病院施設も近年老朽化がすすみ、日常の診療業務にも支障をきたすような状態がでてきました。そのうえ、老人医療の無料化に伴ないおとしよりの患者が増加し、病床の不足、施設設備の不備などから時代の要請に応じきれないようになってきました。このように、七千町民の医療センターとして病院新築の気運が高まり、関係機関のご指導ご支援もうけてこのほどようやく移転新築



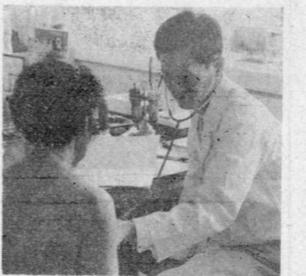
総事業費1億3,000万円をかけて新装なつた町立病院

工事が完成したものです。

ベッド数は三十床

新しい病院は鉄筋コンクリート二階建てで、延面積は千二百二十七・九二五平方メートル(約三百七十二坪)です。一階が診察室、X線テレビ室、薬局、事務局、給食室などの診療・管理部門、二階が病室(一般病床三十床)、手術室、ナースセンター(看護婦詰所)、リハビリテーション室などの病棟部門になっています。

内科の富永院長



外科の石井副院長(左)と井川X線技師

付帯設備として冷暖房、給食リフト、ナースコール、電気温水器自家発電などの機能的システムと無影灯、万能手術台、電気メス、調剤台、紫外線流水殺菌装置、各種検査器械、理学療法器械などの最新医療機械をそろえ、総事業費一億三千三百万円をかけて内容の充実をはかりました。また、既存のX線テレビ装置、胃カメラ、ポータブルX線装置なども活用して名実ともに町立医療機関として、入郷町村のモデル病院としてその運営発展が期待されます。

町民の医療を確保

現在は、内科の富永志郎院長、外科の石井一嘉副院長を中心に、総員二十人で町民の医療を確保しようといけんめいの努力をつけています。今後はさらに理学療法士などの人容の強化につとめ、

この病院の特色であるリハビリテーション(社会復帰療法)を実施する計画もあり、脳卒中などによる歩行障害に悩む人たちの役に立ちたいと努力しています。なお、今までの病院施設とその跡地の利用については、町民のみなさんのためになるように今後検討し、将来有効に活用することにしています。

この病院移転新築事業の財源として、国民年金保険積立金の還元融資をうけています。

町立病院が完成 最新医療機械もそろう

9月21日～30日 秋の全国交通安全運動

子どもと老人を 安全に

交通安全会の活動を強化

ことしの秋の全国交通安全運動は九月二十一日(土)から三十日(月)までの十日間、全国いっせいに実施されます。

最近の交通事故のすう勢をみますと、幸いにして死者数および負傷者数は減少しつつありますが、残念なことに、子どもと老人の事故率は、他の年齢層にくらべ依然として高い率を示しています。宮崎県警察本部が発表したことし一月から六月までの交通事故統計によると、発生した交通事故はしだいに減少しつつあります。ところが、年代別死者は

幼児(園児を含む)……三人
小学生……一人
中学生……二人
二十歳代……五人
三十歳代……六人
四十歳代……十三人
五十歳代……六人
六十歳以上……十五人
と、合計五十一人が六カ月のあいだになくなっていきます。昨年同期に比べると四十人(四

四%)減少しているものの、子どもと老人の死亡が二十一人で、全体の四一・二%を占めています。そして、事故の類型別発生状況をみると、車両相互の事故四百八件に対して、人対車両、ことに路上へのとび出しが百四十件と多く発生しており、路上へのとび出し事故の多いことに注意しなければなりません。

市町村別の交通事故発生状況では、本町は発生件数、傷者とも昨年より減少しているものの、死者が一人であり、昨年と同じ数に減っています。

全車両にステッカー

このような現状をふまえ、秋の運動では、歩行者、自転車利用者、事故防止、特に子ども(幼児と小学校児童をいう)と老人を交通標と定め、この目標達成のために幅広い国民運動として展開することとしています。

スクール・ゾーン
対策は、昭和四十七年春の全国交

通安全運動以来推進され、本町でも六カ所に設置しております。その結果をおさめていますが、さらに一層その整備充実をはかることにしています。

交通安全教育

子どもと老人と自転車の安全な利用について、家族ぐるみ、地域ぐるみで交通安全の意識をかためるため、町内七十四の交通安全会の活動強化をはかります。そのために、法令講習会、映画会を数多く開きます。また、町の交通安全対策本部では、町内の全車両にステッカーをはるようになり、運転者に子ども、老人、身体障害者など交通上弱い立場にある人々に対する保護意識を高めてもらうようにします。

町内の学校付近などを中心に、朝の街頭指導を実施して、通学路の安全を確保します。また、中学校の自転車通学生生に対しては自転車の点検整備を行なっています。

交通規制

国道三二七号線の東郷橋から小野田バス停までの区間が、八月一日から追越禁止になりました。これで東郷橋から出口までの区間は全部追越禁止です。また県道仲野原一美々津線の、仲野原バス停から福瀬小までの区間が、四十kmの速度制限と追越禁止になりました。

自然保護について

最近観光開発ということで、自然をこわして人工的な観光地づくりがさかんに行なわれるようになってきた。いわゆる観光産業である。人間は働くのみではなく、楽しみながら働くことの必要がこのような観光開発を促進している。休日ともなれば、観光地は人で埋もれてしまう。先日、熊本からの帰りに、阿蘇の登山口近くに新しくできた熊の公園をみたが、およそ九十頭のいろいろな熊が、つくられたほら穴の中で様々なしぐさで観光客を喜ばせていた。

随想

かや屋根の売店には、北海道名産の品々が販売されていて、一瞬北海道にいるような錯覚におちいる。しかし、ここは九州であり、熊は人工的なオオトリの中で人に見せるために生きています。不自然ではあるが、奇異を好む人間の心を、たくみに利用した観光施設である。一つの名所として当分は続くであろう。長くなれば不自然も不自然でなくなるようになる。しかし、つくられた人工的な観光地は、いかにたくみであっても自然の美をしのぐことはできない。

神山等、清流といわれる美々津川、小丸川、坪谷川。これらの山と川とが配置よく東郷町を形造っている。町全体が観光資源である。幾百年前からこの土地に住みつた祖先は、緑の山にある清き流れにやすらぎとほげましを覚えたことであろう。わたしたちは今この中にある。これらの資源を大事にしなければならぬと思う。

ところが、大事な自然に変異が起りつつある。河川に繁茂するヨシノコはどうであろう。川の美しさはちろん水であるが河原があつてさらに美しさを増すのである。河原がかくれて、川の美は半減した。この草の退治妙薬はないのか。期待した台風十四号の増水で押倒されたこの草がどうなるであろうか。楠森塚の南面に「ヤマガカレハ」という毛虫が異常発生をして、約四割のクヌギ林を裸にした。近年めずらしい事である。先日、テレビで大淀川にホテイ草が異常繁殖していること、北陸の湖にコンニャクのような塊がだんだん広がって、湖を汚染していることなど。天災地変といえぬにしても、このような異常現象に徹底的なメスをふれ、自然を守りたいものである。(小野弘)

町人口の14%が65歳以上

15日は「敬老の日」

本町の六十五歳以上のおとしよりは、八月一日現在で九百九十五人と町人口の十四%を占めております。他の市町村と比べてもおとしよりの多い町といえます。今後とも老人医療費の無料化などにもない、長生きするおとしよりもふえてくると予想されており、昭和五十五年には町人口の二〇%がおとしよりになると予想されています。

このように人口の老齢化の傾向にある本町としても、おとしより

に対する福祉対策を積極的にすすめるなければなりません。

99歳の徳次郎さん



九月十五日は「敬老の日」ですが、この日は、多年にわたって社会につくしてきたおとしよりを敬愛し、長寿を祝う日です。

各部落では盛大な敬老会などが開かれるようですが、町では、八十歳以上のおとしより百六十人に對して一人三千円の祝金をさしあげ、敬老の日をお祝いすることにしています。

ことし九十歳以上のおとしよりは十八人おられますが、この人たちは町長が直接訪問して長寿をお祝いし、県知事と東旧杵郡社会福祉協議会からの記念品を贈呈することにしています。

本町の最高齢者は寺迫の海野徳次郎さんで、本紙七月号でもご紹介したように明治八年六月二十一日生れの九十九歳です。九十歳以上の長寿者は別表のとおりです。

医療費の無料化

老後を明るく豊かにすすめためにはまず健康であることが第一です。これまでの老人健康診査に加えて七十歳以上のおとしよりと六十五歳以上のからだの不自由な人に対して医療費を助成しています。本町では現在六百七十人の人が費用の心配もなく、いつでもどこでも容易に診療を受けており、症状が軽いうちに治療されるため寿命の延長に精神的安定が期待されています。

老人福祉法では六十五歳以上の住民に対して健康診査を行なうように義務づけられています。ことしは寺迫、福瀬、田野、羽坂、仲



深、坪谷、越表、下渡川の約六百人を対象に実施中です。

特殊ベッドを貸与

近年町内でも一人ぐらしのおとしよりが多くなり、町の調べでは四十人の人が心細い日常生活を送っています。このような人たちが不幸にして病氣などになったとき介護してあげたり、せんたく、そうじなど身のまわりの世話をする「一人ぐらし老人介護人派遣事業」があります。

また、ねたきりのおとしよりも約四十人おられます。このうち、十四人の人たちに對して「家庭奉仕員」二人を派遣しています。さらに、このようなおとしよりに対してのために明るい住いづくりの一助に一人九万円を補助、また特殊ベッドも無償で貸与しています。いろいろな理由から家庭で老後を送れないおとしよりのために町立養護老人ホームを開設し、いま五十二人のおとしよりを十人の職員でお世話しています。

90歳以上の長寿者名簿

氏名	性別	生年月日	住所
1 海野 徳次郎	男	明治 8. 6. 22	寺迫 迫谷
2 海野 平太郎	男	" 9. 3. 28	坪
3 二村 ソヨ	女	" 10. 11. 17	"
4 青柳 新太郎	男	" 11. 6. 9	八重原 表内
5 石田 清六	男	" 11. 8. 14	越野 内瀬
6 児玉 清ツル	女	" 12. 10. 4	福野 谷
7 長渡 八右衛門	男	" 13. 9. 13	福野 谷
8 那須 吉	男	" 15. 1. 11	小野 田
9 畝 豊	男	" 16. 3. 12	原 坂
10 沖田 ケト	女	" 16. 4. 16	小野 野
11 黒木 トユ	男	" 16. 7. 25	寺野 谷
12 塩月 吉次郎	男	" 16. 8. 3	鶴野 谷
13 海野 吉次郎	男	" 16. 10. 8	坪野 谷
14 成野 合為	女	" 17. 4. 14	坪野 谷
15 吉田 伊	女	" 17. 4. 17	坪野 谷
16 佐藤 成	男	" 17. 4. 18	鶴野 谷
17 成合 口	男	" 17. 9. 10	福野 谷
18 谷	男	" 17. 10. 1	福野 谷

毎月一回老人大学

二年前に開館した老人福祉館では毎月一回「老人大学」が開かれており、おたがいにほげまじあいながら教養の向上、健康の増進、レクリエーションなど自主的な活動をしています。

町内には十二の老人クラブがあり、およそ八百人の会員が加入して活動しています。この老人クラブは、とかく家庭にこもりがちなおとしよりが老人クラブに加入しその活動を通じて、おたがいが明るく、元気に、楽しく生きようというものです。

ことしは国民年金法が施行されて十四年目を迎えました。現在町内の年金受給者は老齢福祉年金六百十六人、老齢特別給付金百七十七人、老齢年金九十人です。

成人式を考える

毎年町では一月十五日の成人の日には成人式を行なっていますが、最近成人式に参加する人の服装がますます華美になる傾向にあり、いろいろ問題ができています。

そこで町では来年度成人式を迎える人たちの声を聞く会を開き、成人式簡素化の方向について話し合ってもらいました。当日出席できなかった人にはアンケートによりこたえていただきました。その結果をまとめると……

成人式の期日 一月十五日の式典は県外就職者がその日まで休みがとれないなどの理由で、一月四日か五日を希望する人がいます。このことについてはどのようにするか検討中です。

女性の和服 アンケート調査では女性の八〇%が洋服での参加を希望しており、成人者の会でも和服づくりに多額の費用がかかるとの意見があり、出席者の全員が洋服で参加しようと申し合わせをいたしました。

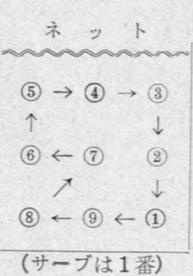
とに決定しました。

秋はスポーツをするのに絶好のシーズンです。恒例の公民館対抗バレーボール、町民体育祭の要領も決まりました。そのときのために今からトレーニングなり練習を始めましょう。

公民館対抗ソフトボール とき 9月16日、午前9時から

町民体育祭 とき 10月20日、午前9時30分から

町民体育祭は、町民体育祭の要領も決まりました。そのときのために今からトレーニングなり練習を始めましょう。



センターラインから三メートルとてろにアタックラインを引く。後衛はこのラインより前でネット上のプレーをすることはできない。

郡民体育大会 とき 9月8日、午前9時30分

分から、延岡市西陸上競技場、選手一般男女と青年男女の合せて二十六人が参加

羽坂の成合為市さんとワサさんご夫妻は、ことしそろって90歳、結婚して66年目を迎えました。全国の米寿を迎えたおとしより夫婦に対して老人福祉センターから記念品を贈りますが、東旧杵郡内では成合さん夫婦がただ1組です。

2人とも耳が少し不自由のようですが、為市さんは歩行もしっかりしておられ、ワサさんも気分のよいときは庭の草むしりをしていて家族の人の話です。

ワサさんは「ジイさんは今年91歳のはずだが、昔のことだから役場のつけ出しがちがったのだから。子どものころ、家が近かったので、自分よりジイさんの方が1つ年上だということを感じています」と話していました。お二人のご健康をお祈りします。



夫婦で180歳

羽坂の成合為市さん夫婦

秋のスポーツ行事

町体育協会では、この秋のスポーツ行事を次のように開催する

食中毒にご注意

手をよく洗おう

ツユがあげ、本格的な夏がやってくる。報道されているように先月日向市をはじめ県内で百人を越す人が食中毒にかかりました。食中毒は近年ますます増加しています。統計によりますと食中毒の七五%以上が七月から十月までの夏期四ヶ月間に発生しており、夏の食物の腐りやすい季節に多いということ。しかも食中毒は集団で発生していることに注目しなければなりません。

どういふもので食中毒にかかっているかを見ると、魚介類によるものが約半数で、以下肉類、乳類の順になっています。そして、原因物質別では、細菌・化学物質・自然毒によるものがあります。この中で細菌性食中毒が圧倒的に多い現状です。

食中毒の防止には

- *調理前の手洗いの励行
- *食品取扱いの三原則
- (ア)清潔(イ)迅速(ウ)冷却・加熱

*調理場所の整理整頓、清潔保持と完全消毒。
*ネズミや昆虫の侵入を防ぎ、ハエ、ゴキブリを徹底的に退治。
*魚介類の水洗いを十分行なう。今回の食中毒の大部分は「腸ビブリオ」で、この菌は塩分一〜三%で急速に増殖するので、真水で魚体を十分洗う(解体した魚肉にうす塩を加えて保存することは腸ビブリオ菌を増殖させることになる)。

*低温で保存する。魚などは細菌の増殖を防止するため摂氏五度以下で保存する。
*なまものはできるだけさけ、火をよく通した食品を食べる。
*冷蔵庫は十日に一度は清掃。

このようないろいろの注意が必要。しかし、これらのことはもっぱら主婦や調理師が料理を作るにあたっての注意事項です。食中毒は、これら作る人の不注意でかかるといふものではない。各自が食事をする前には必ず手をよく洗い、暴飲暴食をつつし、寝冷えなどしないよう注意し、規律ある生活のうえにたつて栄養保持、体力の増強に努めなければなりません。

これから、秋にむかって運動会や遠足、慰安旅行などがあると思えますが、みんなで恐い食中毒をなくするように努めましょう。

腸炎ビブリオ菌 沿岸の海水中に生息し特にアジ、イカ、タコ、シビ、ゲンバ等の近海魚介類を介して食中毒(一次汚染)を起こす。また、汚染した魚および器具、容器などから他の食品に移行して食中毒(二次汚染)を起こす場合が多い。

限りある水道の水

一部に断水寸前

わたしたちの日常生活に欠かすことのできない飲用水として現在八重原、坪谷、山陰、仲ノ原、福瀬の各地区に簡易水道施設を設置して、六百二十戸の二千三百人に給水しています。しかし、最近では建設当時とは比較にならないほど水道の使用料が増加してきたため、一部では断水寸前の状態がでてきました。

水道を建設する段階の計画の中では、将来の人口増加は見込んで設計していますので、最悪の事態は起らないことになっていますが現実的には給水不可能な事態がでてきます。

とくに山陰地区では深刻な問題となつています。この地区の最大給水量は一日四百二十トで、現在の使用量は一日二百トから二百五十トにものぼっています。配水池の容量が二百七十トですので、揚水ポンプはフル運転の状態です。少し無理をして水道を使えば、とたんに配水池はカラっぽになりかねません。

水道は飲用水

水道はあくまでも一般飲用水として設置されており、住民の生活に支障をきたすようなことがあってはなりません。

このように水道の水不足の原因はいろいろ考えられますが、まず加入者のみなさんが飲用水以外に使用しただけ使用しないように心がけていただきたいということです。例えば、水田用水、池や泉水用水として使用していた人がいます。その他にもシャボ口の止め忘れにもご注意ください。ポタリポタリの水もれば、二十四時間でバケツ三杯になります。

また、これら簡易水道は火災のときの消火用水としての役目もあります。配水池に水がたまっていないと消火栓に水圧がないために消火できないことがあります。

一日に二回ある

電話のラッシュ

「朝んうちや、いもん子洗うごつあつて、タクシーは一寸ききみ、なんでタクシーどん乗ったつちやらかおもた」大都会での通勤時のラッシュアワーは大変なものだそう。

ところで、通勤ラッシュに優るとも劣らないサマザイ電話のラッシュアワーが、朝九時から十時と夕食後の八時から十時の二回、皆さんのごく身近に起こっていることをご存じの方は案外少ないようです。

一本の電話線を多数の方が利用される地域集団電話は、このラッシュアワーの時間帯に圧倒的に多く使われています。これではますますつながらにくくなり、かけてもかけてもお話し中の、あのいやいや「イライラ」を解消することは、とても困難になってきます。

気持ちよく、かかりやすい電話とするためには、利用される皆さんのご協力とご理解がぜひ必要なのです。

日向電報電話局

地域と婦人の役割

婦人大会で話し合う

八月一日に中央公民館で東郷町婦人大会が開かれました。この大会は町の婦人連絡協議会が主催して毎年開いているもので会場には百七十人をこえる婦人たちがでいっぱいでした。午前十時に開会、十時三十分から北方町慈眼寺住職の久我正意師が「与えられた命をいかに生きるか」と題して講演しました。



成願寺で朝参供養

百姓一揆の犠牲者21人の冥福祈る



八月十七日の午前十時から成願寺で「朝参供養」があり、約百人の人々が集り冥福を祈りました。今からおよそ二百八十年前の元禄のころ、わたしたちの祖先が住みよい村を建設するために、時の藩主の虐政とたたかい二十一人の犠牲者をたしました。いわゆる、「山陰百姓一揆」です。

毎年旧暦七月十七日に、この一揆で犠牲になつた人々の慰霊の供養が行なわれてきたものです。朝参とは、処刑を受けた人々の遺族たちが人目をしのいで朝早く参り冥福を祈つたことによると言い伝えられています。

郷土のあゆみ(21)

塩月儀市

十一、明治時代(六)

明治二十八年に富高から山陰(舟戸)までの県道が開通しました。それまでの陸上の交通は藩政時代からの道路で、わずかの人馬の従来に支障のない程度でした。

物資の輸送は主として耳川を上下する高瀬舟に頼り、本町の産物、なかでも木炭はこの高瀬舟で美々津、幸脇に送られ、日用品雑貨は美々津、幸脇から運ばれました。当時本町には高瀬舟が四十隻ありました。本町から美々津以南に旅する人たちはほとんどこの高瀬舟を利用しました。牧水先生も「あたたかき冬の朝かなうす板の細長き舟に耳川くだる」と歌っています。

県道の開通によって、今までの駄賃と称して馬の背に木炭三俵くらいを背負って運んだ姿は消えて、これに代って一台二十俵積みの荷積馬車が登場しました。

明治三十一年一月、坪谷と下三ヶ両部落が東郷村よりの分村の認可願を県知事に提出しました。分村の理由は①村内の各部落と人情風習が異なる②殖産上不便である③伝染病発生等の際処置に困るなどがあげられ、分村

後の歳入歳出予算として千五百円の経常予算書を添付しています。

県知事は「廃藩置県以来すでに三十年を経過した今日、人情風俗を異にする故を以て村治上支障あるとは認めない。道路は漸次開発された今日殖産上の不便は認められない。伝染病等の発生の時は却(かえ)って村民の負担を重くする恐れがあるなどの理由で不認可となりましたが、両部落代表は再三再四認可の請求や陳情を行ないましたがついに実現できませんでした。

明治三十三年に県道は坪谷まで延長され、翌三十四年に神門まで開通しました。田代方面もほぼ同じころに開通しました。しかし、神門線、田代線ともに耳川は渡舟での連絡でした。交通機関としては人力車、客馬車でした。客馬車は山陰を起点として富高、田代、神門方面に一日数回往復しました。客馬車は六人乗りでした。

客馬車に山陰で乗車して富高に行きますと、切通しの峠の茶屋で一休みして、馬に水を与えました。その間乗客には茶屋からお盆に六人分のお茶と駄草子をのせて出しました。客はお茶をいただいて茶代として何がしかの銭を払うのが常識でした。

お知らせ



「家庭の日」作品募集

△作文▽小・中学生
▽題名「わが家の「家庭の日」」
▽字数「四百字詰原稿用紙三枚程度。原稿のはじめに学校名・学年・性別・氏名・保護者の職業を明記する。」
△図画・ポスター▽小・中学生
▽内容「家庭の日の体験を描いた

もの、または家庭の日の普及啓発に役立つもの。
▽大きさ「四つ切大。裏面に学校名・学年・性別・氏名・保護者の職業を明記する。」
△体験文▽一般
▽題名「わが家の「家庭の日」」
▽字数「四百字詰原稿用紙五枚以内。原稿のはじめに住所・性別・氏名・年齢・職業を、なお大学生・高校生にあっては学校名と学年を付記する。」
▽応募資格「宮崎県内在住者」
△しめ切り▽
昭和49年9月20日
△送り先▽八八〇
宮崎市橋通東二一〇一
宮崎県青少年対策室
青少年育成県民会議事務局



防災の日(九月一日)

福祉年金証書の返付

先「所得状況届」のために提出中の福祉年金証書を返付します。ので保管証持参のうえ、もよりの場所でお受けとってください。保管証のない人は印かんを持参ください。
▽期日 9月6日
▽場所と時間 寺迫公民館「午前10時から12時・町老人福祉館「午前9時から午後3時・坪谷公民館「午前10時から午後2時」
なお、この日以後は役場福祉係で返付します。

相談のお知らせ

△行政相談▽とき「9月20日午前10時から午後3時まで▽ところ「町老人福祉館▽内容「国や県の仕事で「これは困る」とか「こうしてほしい」などの要望や苦情
△心配ごと相談▽とき「9月9日午前10時から12時まで▽ところ「町老人福祉館▽内容「こどもの非行・家庭内のイザコザ・病気で生活が苦しい・交通事故を起こした・土地問題で困っている」など

通信訓練講座で二級技能士に

職業訓練高等学校では、技能労働者が技能の裏付けとなる専門的知識を通信訓練制度により修得する講座を開設しています。
この講座の修了者は二級技能検定の学科試験免除の特典があります。

▽募集科「配管、板金、左官、建築など二十九訓練科
▽受講資格「実務経験があれば、年齢、学歴、性別は不問

今月の納税

国民健康保険税 二期
納期 九月三十日

善意のこもしび

◆追野内区の東守さんから故新次郎さんの忌明けに◆鶴野内区の岩見春治さんから故宇市さんの忌明けに◆田野区の鈴木政夫さんから故スナさんの忌明けに◆福瀬区の川越止さんから故ハツさんの忌明けに香典返しとしてそれぞれ町社会福祉協議会にご寄付いただきました。
ここに慎んで故人のご冥福をお祈りしますとともに厚くお礼を申し上げます。

東郷町社会福祉協議会

戸籍だよ

八月届出分

出生おめでとう

赤ちゃんの名	父の名	部落
那須 祐一	千秋	坪谷
黒木 めぐみ	安司	鶴野内
三浦 恵里香	寿光	〃
都甲 未幸	幸之	小野田
黒木 雅之	克之	寺迫

ご冥福を祈ります

氏名	年令	部落
東 新次郎	八七	追野内
都 博	四四	小野田
亀山 春野	六三	寺迫
川越 政市	七七	福瀬
鈴木 スナ	七〇	田野

人	現在
49年8月1日	現在
男	3,397人 (+10)
女	3,639人 (+8)
総数	7,036人 (+18)
世帯数	1,795世帯 (+7)